

## ***Oxford Reading Tree*** Level 7 More Stories A

- ① The Motorway 「高速道路」
- ② The Joke Machine 「ジョーク・マシーン」
- ③ The Hunt for Gold 「金の採掘」
- ④ Roman Adventure 「ローマの冒険」

## The Motorway 高速道路

- PG 1: Biff and Chip went to stay with Gran.  
Gran lived in a little village.  
Biff and Chip liked staying with Gran.  
She was good fun.  
She made Biff and Chip laugh.  
ビフとチップはおばあちゃんの所へ泊まりに行った。  
おばあちゃんは、小さな村に住んでいた。  
ビフとチップは、おばあちゃんの所に泊まるのが好きだった。  
おばあちゃんと一緒だと、楽しかった。  
おばあちゃんはビフとチップを笑わせた。
- PG 2: Gran took Biff and Chip to the shed.  
She had a surprise for them.  
'Open the door,' she said.  
'I've got a surprise for you.'  
'What is it?' asked Chip.  
おばあちゃんは、ビフとチップを物置に連れて行った。  
二人にお楽しみがあった。  
「ドアを開けてごらん」と、おばあちゃんが言った。  
「二人にお楽しみがあるのよ」  
「何なの?」と、チップが聞いた。
- PG 3: Biff and Chip opened the door and looked inside the shed.  
They had a big surprise.  
'Oh no!' said Biff.  
'There's a dragon in the shed!'  
ビフとチップはドアを開け、物置の中を見た。  
二人はとっても驚いた。  
「キヤー!」と、ビフが言った。  
「物置に、龍がいる!」
- PG 4: 'It's not a real dragon,' said Gran.  
'It's a kite.'  
Biff and Chip looked at the kite.  
'It's a Chinese dragon kite,' said Gran.  
'It's wonderful,' said Biff.  
「これは、本物の龍じゃないわ」と、おばあちゃんが言った。

「これは、凧よ」  
ビフとチップは凧を見た。  
「これは、中国の龍の凧よ」と、おばあちゃんが言った。  
「すごいわ」と、ビフが言った。

- PG 5: The children wanted to fly the kite.  
'It's a good day for a picnic,' said Gran.  
'And it's a good day to fly the kite. It's quite windy.'  
'Can I fly it first?' asked Biff.  
子どもたちは凧を揚げたかった。  
「今日はピクニックには、良い日ね」と、おばあちゃんが言った。  
「それに、今日は凧を揚げるにも、良い日だわ。けっこう風があるから」  
「私が最初に揚げてもいい?」と、ビフが聞いた。
- PG 6: Gran found a good place for the picnic.  
It was near her house.  
'This is a good place to fly the kite,' she said.  
She let Biff fly the kite first.  
おばあちゃんは、ピクニックにいい場所を見つけた。  
そこは、家のすぐ近くだった。  
「ここは凧を揚げるのに良い場所ね」と、おばあちゃんが言った。  
おばあちゃんは、まずビフに凧を揚げさせた。
- PG 7: The wind took the kite up in the sky.  
It went higher and higher.  
'It looks wonderful,' said Chip.  
Suddenly, the wind got stronger.  
'Don't let go,' called Gran.  
風が凧を空へ飛ばした。  
それは、どんどん、上がって行った。  
「かっこよく見えるな」と、チップが言った。  
突然、風が強くなった。  
「離しちゃダメよ」と、おばあちゃんが言った。
- PG 8: The wind pulled the dragon kite out of Biff's hand.  
It blew away and landed in a tree.  
Biff was upset.  
'I couldn't hold on to it,' she said.  
風で、龍の凧はビフの手から、飛んでいってしまった。  
凧は飛ばされ、木に引っかかった

ビフは悲しかった。  
「つかんでいられなかったの」と、ビフが言った。

- PG 9: Chip climbed the tree and pulled the kite, but it wouldn't come down.  
'Be careful,' said Biff.  
'Mind you don't tear it.'  
'And mind you don't fall,' said Gran.  
チップは、木に登って凧を引っ張った。でも、落ちて来なかった。  
「気を付けて」と、ビフが言った。  
「破らないように」  
「それから、落ちないように」と、おばあちゃんが言った。
- PG 10: The kite was stuck in the tree.  
Chip couldn't get it down.  
In the end, someone got the kite down with a long pole.  
'Thank you,' said Biff and Chip.  
凧は木に引っかかって、動かなかった。  
チップは下ろせなかった。  
最後に知らない人が、凧を長い棒でとってくれた。  
「ありがとう」と、ビフとチップが言った。
- PG 11: Biff and Chip went to fly the kite again.  
Chip saw some wild flowers.  
'Mind those flowers!' he said.  
'Don't step on them.'  
ビフとチップは、また、凧を揚げに行った。  
チップは、野生の花を見つけた。  
「花に気を付けて!」と、チップが言った。  
「踏まないで」。
- PG 12: Gran looked upset.  
'What's the matter, Gran?' asked Chip.  
'They want to build a motorway.  
They want to put it right here,' said Gran.  
おばあちゃんは悲しそうに見えた。  
「おばあちゃん、どうしたの?」と、チップが聞いた。  
「高速道路を作りたがっている人がいるの。  
ここに、作りたがっているの」と、おばあちゃんが言った。
- PG 13: Biff and Chip were upset, too.  
They didn't want a motorway there.

'We won't be able to have picnics or play in the wood,' said Biff.  
'And we won't be able to fly the kite.'  
ビフとチップも悲しかった。  
二人は、高速道路をそこに作って欲しくなかった。  
「私たち、ピクニックも、森の中で遊ぶことも、できなくなる」と、  
ビフが言った。  
「凧も、揚げられなくなる」。

PG 14: A woman pointed to the wood.  
Then she pointed to the village.  
'This is where the motorway will go.  
It will go between the wood and the village,' she said.  
女の人が、森を指さした。  
そして、村を指さした。  
「あそこに、高速道路が通る予定です。  
森と村の間を通るのです」と、女の人が出った。

PG 15: Gran was very upset.  
She looked at the village and she looked at her house.  
'We don't want a motorway here,' she said.  
'We must stop it.'  
おばあちゃんは、とても悲しかった。  
おばあちゃんは、村を見て、自分の家を見た。  
「私たち、ここに高速道路なんて欲しくないよ」と、おばあちゃん  
が出った。  
「止めなくちゃ」。

PG 16: Gran told people in the village about the motorway.  
Everyone was upset.  
'We don't want a motorway here.  
We must stop it,' they said.  
おばあちゃんは、村の人たちに高速道路の話をした。  
みんなが悲しがった。  
「私たちは、ここに高速道路なんて欲しくない。  
止めさせなくちゃいけない」。

PG 17: Everyone wanted to stop the motorway.  
'We don't want it here,' said Gran.  
'It will spoil our village.'  
'It can't be helped,' said a man.  
'We can't stop it.'

みんな、高速道路を中止させたかった。  
「私たちは、そんなもの欲しくない」と、おばあちゃんが言った。  
「私たちの村を、だいなしにするわ」  
「どうしようもないんだ」と、男の人が言った。  
「私たちには、止められません」。

- PG 18: People came to Gran's house.  
They made banners and posters.  
Gran made a big banner.  
Biff helped her.  
The banner said, 'Stop the motorway'.  
村の人たちが、おばあちゃんの家に来た。  
みんなは旗やポスターを作った。  
おばあちゃんは、大きな旗を作った。  
ビフが手伝った。  
旗は、「高速道路中止」と、書いてあった。
- PG 19: Chip was good at painting.  
He made a poster.  
The poster said, 'Save our woodland'.  
'The banner looks good,' said Biff.  
'And Chip's poster looks good too.'  
チップは絵を描くのが上手だった。  
チップはポスターを作った。  
ポスターには「ぼくらの森を救おう」と、書いてあった。  
「旗はなかなかよく見えるわ」と、ビフが言った。  
「それに、チップのポスターも」。
- PG 20: Everyone went to a meeting.  
An important woman was there.  
The woman pointed to a map.  
'We have to put the motorway here,' she said.  
みんなは、集会に行った。  
そこには、えらい女の人がいた。  
女の方は、地図を指さした。  
「ここに高速道路を引かなければならないのです」と、言った。
- PG 21: 'We don't want the motorway here,' said Gran.  
'It will spoil the village.'  
'It can't be helped,' said the woman.  
'It has to go somewhere. I can't stop it'

「私たちは、ここに高速道路は欲しくない」と、おばあちゃんが言った。  
「村をだいなしにするわ」  
「どうしようもないのです」と、女の人が出った。  
「どこかに、引かなければならないのです。私には、止められません」。

- PG 22: Soon, big lorries and bulldozers came to the village.  
Nobody wanted the motorway.  
Everyone wanted to stop it, but the bulldozers began to dig.  
少したつと、大きなトラックやブルドーザーが村にやって来た。  
誰ひとり、高速道路なんて欲しくなかった。  
みんなが止めたかった、でも、ブルドーザーが地面を掘り始めた。
- PG 23: Gran looked at the bulldozers.  
'The motorway will spoil the countryside,' she said.  
'Now we won't be able to walk in the woods and go on picnics.'  
おばあちゃんはブルドーザーを見た。  
「高速道路は、田園をだいなしにする」と、おばあちゃんが言った。  
「もう、森の中を歩くことも、ピクニックもできなくなる」。
- PG 24: The children watched the bulldozers.  
Biff looked at the wild flowers.  
'Oh no!' she said.  
'The bulldozer will dig them up soon.  
Let's pick some for Gran.'  
子どもたちはブルドーザーを見た。  
ビフは野生の花を見た。  
「どうしよう!」と、ビフが出った。  
「ブルドーザーが、もうすぐこの花を、掘り起こしてしまう。  
おばあちゃんに摘んで行こう」。
- PG 25: Biff and Chip made Gran a cup of tea.  
They gave her the flowers.  
'We picked these flowers for you,' said Chip.  
'The bulldozer will dig them up soon.'  
ビフとチップは、おばあちゃんにお茶を入れた。  
二人は、花をあげた。  
「ぼくたち、この花をおばあちゃんに摘んだんだ」と、チップが出った。

「ブルドーザーがもうすぐ、花を掘り起こしちゃうんだ」。

- PG 26: Gran looked at the flowers.  
'I think these flowers are very rare,' she said.  
'I've never seen them before.'  
She jumped up and ran inside the house.  
おばあちゃんが花を見た。  
「この花は、とても珍しいと思うわ」と、おばあちゃんが言った。  
「今までに、見たことがない」  
おばあちゃんは飛び上がって、家の中へ走り込んだ。
- PG 27: Gran looked in a book.  
She found a picture of the flowers.  
'This is wonderful!' shouted Gran.  
'These flowers are rare.'  
Now we can stop the motorway.'  
おばあちゃんは本を見た。  
花の写真を見つけた。  
「これは、素晴らしい!」と、おばあちゃんが叫んだ。  
「この花は、本当に珍しい。これで、高速道路を止められるよ」。
- PG 28: People came from everywhere.  
They looked at the rare flowers.  
'This is amazing,' they said.  
'We've never seen these flowers before.'  
They must be saved.'  
人々が、そこらじゅうからやって来た。  
みんなは、その珍しい花を見た。  
「これは、すばらしい」と、みんなが言った。  
「今までこんな花を見たことがない。  
これは、保存すべきだ」。
- PG 29: 'Hooray!' shouted Gran.  
'These flowers will stop the motorway.'  
They can't put a motorway here.  
They can't dig up rare flowers.'  
「やった!」と、おばあちゃんが叫んだ  
「その花が、高速道路を止めてくれるわ。  
ここには、高速道路を引けなくなる。  
この珍しい花を掘りおこす事はできないのよ」。



- PG 30: The rare flowers were saved, and so was Gran's village.  
The bulldozers and lorries went away,  
but they left a big hole in the ground.  
その珍しい花も、おばあちゃんの村も、救われた。  
ブルドーザーとトラックが去って行った。  
でも、大きな穴を地面に残していった。
- PG 31: 'Thank you for helping us stop the motorway,' said Gran.  
'What will you do about the hole?' asked Biff.  
Gran smiled. She had an idea.  
「高速道路を止めるのを助けてくれて、ありがとう」と、  
おばあちゃんが言った。  
「穴は、どうするの?」と、ビフが聞いた。  
おばあちゃんが微笑んだ。ある考えがあったのだ。
- PG 32: The big hole was made into a lake.  
Ducks came to live on it and wild flowers grew round it.  
'The children will like this,' said Gran.  
'It's better than a motorway.'  
大きな穴は湖になった。  
アヒルが住みに来て、野生の花が周りに育った。  
「子どものたちはこれが気に入るよ」と、おばあちゃんが言った。  
「高速道路より、ずっといいもの」。

## The Joke Machine ジョークマシーン

- PG 1: Everyone was in the playground.  
“I’ve got a good joke,” said Wilf. “What goes black, white, black, white?”  
“I don’t know,” said Biff.  
“A penguin rolling down a hill!” said Wilf.  
みんなは校庭にいました。「僕、面白い冗談を知ってるよ」とウィルフが  
言いました。「黒、白、黒、白になるものなーに？」  
「わからない」とビフが言いました。  
「丘をころげ落ちるペンギンだよ」とウィルフは言いました。
- PG 2: “I’ve got one,” said Anneena. “Why couldn’t the skeleton go to the party?”  
“Why couldn’t the skeleton go to the party?” asked Chip.  
“It had *no body* to go with!” said Anneena.  
「私もひとつ知ってるわ」とアニーナが言いました。「なぜ骸骨はパーティーに行けなかったのでしょうか？」  
「なぜ骸骨はパーティーに行けなかったのでしょうかだって？」とチップが尋ねました。「一緒に行く人が誰もいなかったから\*」とアニーナは言いました。  
(\*編集部注: no body に、「骨だけで身体がない」と「誰もいない」の二つの意味をかけている)
- PG 3: “Time to come inside!” called Mrs May. “Line up quietly, everyone.”  
“What do sea monsters eat?” said Nadim. “Fish and ships!”  
“That’s a terrible joke!” said Biff.  
「もう中に入る時間ですよ！」メイ先生が呼びました。「みんな静かに並んで」  
「海の怪物は何を食べるでしょう？」ナディムが言いました。  
「魚と船！\*」  
「それはひどい冗談だわ」とビフは言いました。  
(\*編集部注: 英国の代表的料理のひとつである fish and chips に、ことばの響きが近い fish and ships をかけたことば遊び)
- PG 4: “Get in, you chatterboxes,” said Mrs May. “Didn’t you hear the whistle?”  
“Sorry, Mrs May,” said Wilf. “We were telling jokes.”  
“Well, it’s time to stop now,” said Mrs May.  
「中へお入りなさい、あなたたちおしゃべりさん」とメイ先生が言いました。  
「笛の音が聞こえませんでしたか？」「すみません、メイ先生、僕たち冗談

を言い合ってたんです」「ではもう止める時間ですよ」とメイ先生は言いました。

- PG 5: “Mrs May!” called Biff. “What does an elephant do on a motorway?”  
“Not now, Biff,” said Mrs May. “Tell me later. In you go everyone.”  
「メイ先生！」とビフが呼びかけました。「ゾウは高速道路で何をしよう？」「今はだめです、ビフ。あとでちょうだね。みんな中に入って」とメイ先生は言いました。
- PG 6: “Biff,” whispered Nadim. “What *does* an elephant do on a motorway?”  
“About two miles an hour!” said Biff.  
“Biff! Nadim!” said Mrs May. “Go inside quietly!”  
「ビフ」とナディムがささやきました。「ゾウは高速道路で何をしよう？\*」  
「1時間に約2マイル!」とビフは言いました。  
「ビフ、ナディム！」メイ先生が言いました。「静かに中に入りなさい」  
(\*編集部注: What does ~do という言い方には「何をするか」という意味以外に、「どんな速さか」という意味がある。ゾウが何をするかととれる質問に、スピードについての答えをしたところが意外でおもしろい。)
- PG 7: It was nearly time to go home.  
“Well done!” said Mrs May. “You have worked hard today. Now it’s time to tidy up.”  
そろそろ家に帰る時間でした。  
「よくできました」とメイ先生は言いました。「今日はよく勉強しましたね。さあ、お片づけの時間です」とメイ先生は言いました。
- PG 8: “Mrs May!” called Anneena. “Do you want to hear one of Nadim’s jokes?”  
“Well, just one,” said Mrs May. “I want to get home tonight.”  
「メイ先生！」とアニーナが呼びかけました。「ナディムの冗談を一つ聞きたくありませんか？」  
「そうね、ひとつだけ。私は今晚家に帰りたいから」とメイ先生は言いました。
- PG 9: “Why do cows wear bells?” asked Nadim.  
“I don’t know,” said Mrs May. “Why do cows wear bells?”  
“Because their horns don’t work!”  
「なぜ牛は鐘(ベル)をつけているのでしょうか？」とナディムが聞きました。  
「わからないわ」とメイ先生は言いました。「なぜ牛は鐘をつけているの？」「彼らの角は役に立たないからです\*」とナディムは言いました。

(\*編集部注: horn には動物の角と警笛のふたつの意味がある)

- PG 10: Mrs May clapped her hands.  
“I want to ask you something,” she said. “Who knows about *Help the Children Day*?”  
“There’s a special day,” said Chip.  
“People raise money to help children,” said Wilf.  
メイ先生は手を叩きました。「あなたたちに聞きたいことがあるわ」とメイ先生は言いました。「『子どもたちを救済する日』について知っている人は誰？」  
「特別な日です」とチップが言いました。「人々は子どもたちの救済のために寄付金を集めます」とウィルフが言いました。
- PG 11: “How could we raise money for *Help the Children Day*?” asked Mrs May.  
“We’ll have to think hard,” said Anneena.  
“Tell me your ideas tomorrow,” said Mrs May.  
「どうすれば『子どもたちを救済する日』のために寄付金を集められるでしょう？」とメイ先生は尋ねました。  
「私たち、よく考えなくちゃ」アニーナは言いました。  
「あなたたちの考えを明日聞かせて下さい」メイ先生は言いました。
- PG 12: Everyone was at Biff and Chip’s house.  
“I can’t think of anything,” said Chip.  
“Nor can I,” said Anneena.  
“What ideas have we had so far?” asked Biff. “Read out the list, Nadim.”  
みんなはビフとチップの家にはいました。「僕は何も思いつかない」とチップは言いました。「私もよ」とアニーナが言いました。「今までに考えついたことって何？」とビフが尋ねました。「そのリストを読み上げてちょうだい、ナディム」。
- PG 13: Nadim read out the list. “Ideas for *Help the Children Day*. Washing cars, toy sale.”  
“That’s only two ideas!” said Anneena.  
“Well, we’ve only had two ideas,” said Wilf.  
ナディムはリストを読み上げました。「『子どもたちを救済する日』のための考え。洗車、おもちゃのセール」「たった二つだけね！」とアニーナは言いました。「さて、僕たちは二つしか思いつきませんでした」とウィルフは言いました。
- PG 14: “I don’t think washing cars is a good idea,” said Chip. “I don’t think Mrs May would let us.”

"And I gave all my old toys to the last toy sale," said Wilf.

「洗車はよい考えじゃないな」とチップは言いました。「僕はメイ先生はやらせてくれないと思うな」

「それに僕は前回のおもちゃのセールの際に、古いおもちゃは全部あげてしまった」とウィルフは言いました。

PG 15: Then Nadim had a good idea.

"What about a joke machine?" he said. He told them all about his idea. Everyone was excited.

"I can't wait to tell Mrs May," said Chip.

その時、ナディムが良い考えを思いつきました。「冗談の機械ってどう？」彼は言いました。彼は自分の考えについて全部話した。みんなはワクワクした。「メイ先生に話すのが待ちきれない」とチップは言いました。

PG 16: The next day, they were back at school.

"Mrs May!" called Anneena. "We've got an idea for *Help the Children Day!*"

"It must be a good one," said Mrs May. "You all sound excited."

その次の日、彼らは学校にもどって来ました。「メイ先生！」とアニーナが呼びかけた。「私たち、子どもたちを救済する日のためにある考えを思いつきました」「それはきっとよい考えにちがいないわね。あなたたち、みんなワクワクした声ですもの」とメイ先生は言いました。

PG 17: They told Mrs May what the idea was.

"It's a joke machine!" said Biff.

"We write jokes on slips of paper," said Chip. "Then we put the jokes in a box."

"The box is the joke machine," said Wilf.

彼らはメイ先生にその考えを話しました。「それは冗談の機械です！」とビフが言いました。「僕たちが細い紙に冗談を書きます」とチップは言いました。「それから僕たちはその冗談を箱の中に入れます」「その箱が冗談の機械なのです」とウィルフは言いました。

PG 18: "It's a great idea!" said Anneena. "People pay for a joke!"

"They give some money," said Wilf. "Then they get a joke from the box."

「すばらしい考えなんです！」アニーナが言いました。「人々は冗談とひきかえにお金を払うんです！」「人々はいくらかのお金を出します」とウィルフが言いました。「すると、箱の中から冗談をひとつ取り出せるんです」

- PG 19: "I think it's a lovely idea," said Mrs May. "But I can see one problem."  
 "What 's that?" everyone asked.  
 "You will need lots and lots of jokes," said Mrs May.  
 「それはすてきな考えだと思います」とメイ先生は言いました。「でもひとつ問題があると思うわ」  
 「それは何ですか？」とみんなが尋ねました。  
 「とてもとても、たくさんの冗談が必要になりますね」とメイ先生は言いました。
- PG 20: The joke machine was finished.  
 "It's brilliant!" said Chip. "Look! I've finished the poster,"  
 "A laugh does you good," read Wilf.  
 "Do good with a laugh."  
 冗談の機械が出来上がりました。  
 「見事だね！」とチップは言いました。「見て！ 僕はポスターを完成したよ」  
 「笑いはあなたをよい子にします」とウィルフが読みました。「笑ってよい事をしよう」。
- PG 21: "We have put the jokes on the computer, now we can print them off," said Nadim. "And here's the next one: What game do horses play?"  
 "Stable tennis!" laughed Anneena.  
 「冗談をコンピューターに入力したので、もう打ち出すことができるよ」とナディムは言いました。「それから、次のはこれ。『馬はどんなゲームをするでしょう？』」  
 「馬小屋テニス！\*」アニーナは笑いました。  
 (\*編集部注・卓球=table tennis と似た音の stable(馬小屋) tennis をかけている)
- PG 22: "How many jokes have we got?" asked Wilf.  
 "Forty-nine," said Nadim. "I wish we had some more."  
 "Here is one more for you," said Mrs May. "What can fly and has four legs?"  
 「僕たちいくつ冗談を作ったかな？」とウィルフが尋ねました。  
 「49」とナディムが言いました。「もう少しあったらいいね」  
 「あなたたちのために、もうひとつあります」とメイ先生が言いました。  
 「飛ぶことができて 4 本足のものはなに？」
- PG 23: "We don't know!" they all said. "What can fly and has four legs?"  
 "Two birds!" said Mrs May. Everyone laughed.  
 「わかりません！飛ぶことができて 4 本足のもの？」とみんなが言いま

した。「2羽の鳥です！」とメイ先生は言いました。みんなが笑いました。

- PG 24: They took the joke machine to the shopping center.  
“Roll up! Roll up!” they shouted.  
“Support the children! Buy a joke for 50p or more!”  
みんなは、冗談の機械をショッピングセンターへ持っていきました。  
「いらっしやい！ いらっしやい！」と大きな声で言いました。  
「子どもたちを支援してください！ 50ペンス以上で冗談を買ってください！」
- PG 25: A man came up to buy a joke.  
“He’s given us a pound!” called Chip.  
“Thank you, very much.”  
The man wanted them all to tell the joke. So they told it together.  
一人の男の人が冗談を買いに来ました。  
「彼は僕たちに1ポンド払ってくれたよ！ どうもありがとうございます」とチップは言いました。  
その男の人は冗談をみんなで言ってほしいと言いました。そこでみんなでその冗談を言いました。
- PG 26: “What has only one foot?” they all said.  
“I don’t know,” said the man. “What has only one foot?”  
“A leg!” they said.  
Everyone laughed.  
「足がひとつしかないものな一に？」彼らみんなで言いました。  
「分からないなあ」と、その男の人は言いました。「足がひとつしかないもの？」  
「1本の脚です！」と彼らは言いました。みんな笑いました。
- PG 27: “I have some good news,” said Mrs May. “The mayor loves your joke machine. She wants to buy all your jokes! Guess how much she will pay for each one?”  
「よい知らせがあります」とメイ先生が言いました。「市長さんがあなたたちの冗談の機械が気に入ったの。彼女はあなたたちの冗談を全部買いたいそうです！ 冗談ひとつにつき、彼女がいくら払ってくださるか当ててみて？」
- PG 28: “We don’t know,” said everyone. “How much will she pay for each one?”  
“Two pounds!” said Mrs May.  
“Fifty jokes at two pounds each!” said Nadim. “That’s a hundred pounds!”

「わからない。冗談ひとつにつき、いくら払うかなんて」とみんなは言いました。  
「2ポンドです！」とメイ先生は言いました。  
「ひとつ2ポンドで50個の冗談！ つまり100ポンドです！」とナディムが言いました。

- PG 29: “But we’ve sold twenty jokes,” said Wilf. “There are only thirty left.”  
“I’ve been putting them back,” said Nadim. “There are still fifty in there.”  
「でも僕たちもう20個の冗談を売ってしまった。あと30個しか残っていないよ」とウィルフが言いました。  
「僕がその分を戻したよ。その中にはまだ50個入ってる」とナディムは言いました。
- PG 30: “Three cheers for Nadim!” said Anneena. “It was his brilliant idea!”  
“And three cheers for the joke machine!” said Mrs May.  
「喝采を3回ナディムに！\*」とアニーナが言いました。「彼の思いつきさえてるわ！」  
「そして冗談の機械に3回の喝采を！」とメイ先生が言いました。  
(\*編集部注: three cheers とは、何か、誰かを称えて同じセリフを3回繰り返し唱えること。“Hip, hip, hooray!”と唱える場合が多い)
- PG 31: “I’ve thought of another joke,” said Nadim. “What card game do crocodiles like?”  
“We don’t know,” they all said. “What card game do crocodiles like?”  
「僕、別の冗談を思いついたよ」とナディムが言いました。「ワニの好きなカードゲームは何でしょう？」  
「わからない。ワニはどんなカード遊びが好きなの」と彼らみんなが聞きました。
- PG 32: “Snap!” said Nadim. Everyone groaned.  
「スナップさ！」とナディムは言いました。みんなは(感心して)うなりました。  
(\*編集部注: どうもうなワニが「かみつく」意味とトランプ遊びのひとつである「スナップ」をかけている)



## The Hunt for Gold 金の発掘

- PG 1: Wilma's mum had a charm bracelet.  
It was made of gold.  
The bracelet had ten charms on it.  
The charms were made of gold too.  
'It's a beautiful bracelet,' said Chip.  
ウィルマのママは、飾りのついた腕輪を持っていた。  
それは、金で出来ていた。  
腕輪には、十個の飾りがついていた。  
その飾りも、金で出来ていた。  
「それは、きれいな腕輪だね」と、チップが言った。
- PG 2: Wilma's mum was washing her hands at the sink.  
She had the bracelet on.  
One of the charms fell off the bracelet, and it went down the plug hole.  
ウィルマのママは、流しで手を洗っていた。  
ママは、腕輪をしていた。  
飾りが一つ、腕輪から落ちて、流しの穴に落ちてしまった。
- PG 3: Wilma's mum was very upset.  
'I hope I can get the charm out of the plug hole,' she said.  
Chip ran and got his mum.  
'She can get the charm out,' he said.  
ウィルマのママはとても悲しかった  
「飾りを穴から取れると、いいのだけどね」と、ママが言った。  
チップが、チップのママを呼びに走った。  
「ぼくのママが、飾りを取り出せるよ」と、チップが言った。
- PG 4: Mum put a plastic bowl under the sink.  
Everyone looked in the bowl.  
'There's the charm,' said Mum.  
'Yuk!' said Wilma. 'It's got dirt on it.'  
Wilma's mum was glad to get it back.  
ママがプラスチックの容器を流しの下に置いた。  
みんなが、容器の中を見た。  
「ここに、飾りがあったわ」と、ママが言った。  
「気持ち悪い!」と、ウィルマが言った。「ごみがついてるわ」  
ウィルマのママは、飾りが戻ってきて、嬉しかった。

- PG 5: Mum found something else.  
‘Yuk!’ she said. ‘Look what I’ve found.’  
It was Wilf’s old chewing gum.  
‘What a place to stick old chewing gum!’ said Wilma’s mum.  
ママが、別の物を見つけた。  
「ウエ!」と、言った。「私が見つけたものを見て」  
それは、ウィルフの古いガムだった。  
「なんて所に、古いガムがくっついたのかしら!」と、  
ウィルマのママが言った。
- PG 6: The children went to Biff’s bedroom.  
Wilf had three packets of chewing gum.  
He gave some gum to Chip.  
‘This is my bedroom,’ said Biff, ‘so mind where you put the old  
chewing gum.’  
子どもたちはビフの寝室にいた。  
ウィルフは、ガムを3パック持っていた。  
ウィルフは、少し、チップにあげた。  
「ここは、私の寝室よ」と、ビフが言った。「だから、ガム  
かみかすの置き場所には、気を付けてよね」。
- PG 7: Suddenly, the magic key began to glow.  
The magic took the children on a new adventure.  
‘Help!’ said Wilf. ‘I don’t know what to do with my old chewing  
gum.’  
突然、魔法の鍵が光り始めた。  
魔法は、子どもたちを新しい冒険へ連れて行った。  
「助けて!」と、ウィルフが言った。「ぼく、かみかけの古いガム  
をどうすればいいのか、わからないよ」。
- PG 8: The magic took the children back in time.  
It took them to a river.  
A boy and a girl were looking for something in the water.  
魔法は子どもたちを、昔へ連れて行った。  
みんなを、川へ連れて行った。  
男の子と女の子が、川の中で何かを探していた。
- PG 9: The boy and the girl had big pans.  
They scooped up little stones from the river.  
Then they looked for tiny bits of gold in the bottom of the pans.

男の子と女の子は、大きな平鍋を持っていた。  
二人は、川からじゃりをすくい上げた。  
そして、二人は平鍋の底の中の、金のかけらを探した。

- PG 10: The boy and girl got angry, when they saw the children.  
They didn't want them to look for gold.  
'This is our bit of river,' they shouted.  
'Go and look for gold somewhere else!'  
男の子と女の子は、子どもたちを見て、怒った。  
二人は、みんなに金を探して欲しくなかった。  
「ここは、ぼくらのなわばりの川だ」と、二人は叫んだ。  
「どっか違う所に、金を探しに行つてよ」。
- PG 11: Wilf gave the boy and girl some gum.  
They hadn't seen chewing gum before.  
They didn't know what to do with it.  
'You just chew it,' said Wilf.  
'Chew it, but don't swallow it.'  
ウィルフは、その男の子と女の子にガムをあげた。  
二人は、今までに、ガムを見た事がなかった。  
二人は、それをどうすれば良いのかわからなかった。  
「噛むだけだ」と、ウィルフが言った。  
「噛んで、でも、飲み込まないで」。
- PG 12: The boy was called Luke and the girl was called Alice.  
They lived in a hut by the river.  
Alice and Luke looked for gold every day.  
It was a hard life.  
男の子はルークという名で、女の子はアリスという名前だった。  
二人は、川の近くの小屋に住んでいた。  
アリスとルークは、毎日、金を探していた。  
それは、つらい生活だった。
- PG 13: The family hadn't found any gold, and Luke and Alice were always hungry.  
'Looking for gold is hard,' said Luke.  
'Do you want to help us?'  
その家族は、まだ全く金を見つけたことがなかった。  
そして、ルークとアリスはいつもお腹をすかしていた。  
「金を探すのは、大変なんだ」と、ルークが言った。  
「僕たちを、助けてくれるかい？」

- PG 14: The children helped look for gold.  
Wilf and Biff helped Luke's father.  
Wilma and Chip helped Alice and Luke.  
'I'm glad I brought the gum,' said Wilf.  
'This is hard work.'  
子どもたちは金を探すのを手伝った。  
ウィルフとビフは、ルークのお父さんを手伝った。  
ウィルマとチップは、アリスとルークを手伝った。  
「ガムを持ってきてよかったよ」と、ウィルフが言った。  
「これは、大変な仕事だ」。
- PG 15: It was cold in the river, and the children soon got tired.  
'We do this every day,' said Luke, 'and we still haven't found any gold.'  
川の中は、冷たかった。そして、しばらくすると、子どもたちは  
疲れてしまった。  
「僕らは、毎日こうしてるんだ」と、ルークが言った。「それなのに、  
まだ、金が見つからないんだ」。
- PG 16: Suddenly, Luke's father shouted.  
'Gold!' he yelled. 'We've found gold.'  
He picked up a big nugget of gold and jumped up and down.  
Everyone ran to see.  
突然、ルークのお父さんが叫んだ。  
「金だ！」と、お父さんが叫んだ。「私たちは、金を見つけたんだ」  
お父さんは、大きな金の塊を取って、跳びはねた。  
みんなが見に、駆け寄った。
- PG 17: Everyone looked at the gold nugget.  
It felt heavy and cold.  
'Hooray!' shouted Luke's mother.  
'We have found gold at last,' she said. 'I thought we'd never find  
any.'  
みんなは、その金の塊を見た。  
それは、重くて、冷たく感じた。  
「やったわ！」と、ルークのお母さんが叫んだ。  
「やっと、私たち、金を見つけたのよ」と、お母さんが言った。  
「もうぜったい、見つけられないと思っていたわ」。
- PG 18: The children went to town with Luke's mother and father.  
Luke and Alice were excited.  
'We can sell the gold,' they said, 'and we can buy some food.'

子どもたちは、ルークの両親といっしょに町へ行った。  
ルークとアリスは、とても楽しみにしていた。  
「僕らは、金を売るんだ」と、二人は言った。  
「そして、食べ物を買うんだ」。

- PG 19: 'We can buy new clothes,' said Luke's mother.  
'And a new spade,' said Luke's father.  
'And some chewing gum,' said Luke.  
'What's chewing gum?' asked Luke's father.  
「新しい服も買えるわ」と、ルークのお母さんが言った。  
「それに、新しいシャベル」と、ルークのお父さんが言った。  
「それに、ガムも」と、ルークが言った。  
「ガムってなんだい？」と、ルークのお父さんが聞いた。
- PG 20: Some men were waiting in the road.  
'Oh no!' said Luke's father. 'Robbers!'  
'They will steal our gold nugget. What shall we do?'  
男たちが、道で待ち伏せをしていた。  
「どうしよう！」と、ルークのお父さんが言った。「泥棒だ！」  
「あいつらは、私たちの金の塊を盗んでしまう。どうすればいいんだ？」
- PG 21: Wilf had an idea.  
He spoke to all the children.  
'Give me your chewing gum,' he said.  
'Give me all the old chewing gum, and give me the gold nugget.'  
ウィルフには、考えがあった。  
ウィルフは、子どもたち皆に話しかけた。  
「僕にかみかけのガムを頂戴」と、ウィルフが言った。  
「僕にかみかけのガム、全部頂戴。それとその金の塊も」。
- PG 22: The robbers wanted gold and money.  
'But we're just a poor family,' said Luke's father.  
'We haven't got any money and we haven't found any gold.'  
泥棒たちは、金とお金が欲しかった。  
「でも、私たちは貧しい家族です」と、ルークのお父さんが言った。  
「お金は持っていないし、金も見つかっていない」。
- PG 23: The robbers looked everywhere.  
They searched everyone.

'We're only children,' said Alice.  
'We haven't got any gold and we haven't got any money.'  
泥棒は、すみずみまで探し回った。  
泥棒は、みんなを調べた。  
「私たち、ただの子どもよ」と、アリスが言った。  
「私たちは、金も、お金も、持っていないわ」。

PG 24: The robbers couldn't find the gold.  
They let everyone go.  
'Hooray,' said Luke.  
'Wilf's chewing gum saved the gold.'  
'Is that chewing gum?' asked Luke's father.  
泥棒は、金を見つけられなかった。  
泥棒は、みんなを見逃した。  
「やった！」と、ルークが言った。  
「ウィルフのガムが、金を救ったんだ」  
「それが、ガムなのか？」と、ルークのお父さんが言った。

PG 25: Luke's father and mother got some money for the gold.  
'I can have a new dress,' said Alice.  
'And I can have new boots,' said Luke.  
ルークのお父さんとお母さんは、金をお金に替えた。  
「新しいワンピースが買ってもらえるわ」と、アリスが言った。  
「僕も、新しいブーツが買ってもらえる」と、ルークが言った。

PG 26: Luke's father bought a new cart.  
It was bigger than the old one.  
'We need a new cart,' said Luke.  
'There is so much to take home.'  
ルークのお父さんは、新しい荷車を買った。  
それは、古いのよりも大きかった。  
「新しい荷車がいるんだ」と、ルークが言った。  
「たくさん、家にもって帰るんだ」。

PG 27: The children helped them put everything on the cart.  
'This is hard work too,' said Biff.  
'These magic adventures are not all fun.'  
子どもたちは、荷車に物を積みこむのを手伝った。  
「これも、大変な仕事だわ」と、ビフが言った。  
「魔法の冒険は、全部が楽しいわけじゃないのね」。

- PG 28: They all went back to the river.  
The family put on the new clothes.  
Wilma and Biff looked for gold.  
'I hope we find some,' said Wilma.  
'I'd love to find a gold nugget.'  
みんなは川に戻った。  
家族は、新しい服を着た。  
ウィルマとビフは、金を探した。  
「見つかるといいわ」と、ウィルマが言った。  
「金の塊が見つければ、すごく嬉しいわ」。
- PG 29: Suddenly, Biff saw a little yellow speck in the pan.  
She had found some gold.  
'It's very small,' she said.  
Just then, the magic key began to glow.  
その時、ビフが、小さな黄色の粒が平鍋の中にあるのに  
気付いた。  
ビフは、金を見つけたのだ。  
「これは、とても小さいわ」と、ビフが言った。  
その時、魔法の鍵が光り始めた。
- PG 30: The magic took the children home.  
Biff looked at the gold.  
'It looks really tiny, now,' she said.  
'It looks like a speck of dust!'  
Suddenly, Chip sneezed.  
魔法は子どもたちを家へ連れて行った。  
ビフが、金を見た。  
「もう、本当に小さく見える」と、ビフが言った。  
「ほこりのかけらみたいに見える！」  
突然、チップがくしゃみをした。
- PG 31: The speck of gold blew out of Biff's hand.  
It blew on to the carpet.  
'Did you see where it went?' asked Biff.  
'Oh no! Sorry!' said Chip.  
  
金のかげらは、ビフの手から飛ばされた。  
カーペットの上に飛び落ちた。  
「どこに行ったか、見てた？」と、ビフが聞いた。  
「しまった！ ごめんよ！」と、チップが言った。

PG 32: The children looked and looked.  
They couldn't find the little speck of gold.  
'I don't think we ever will,' said Biff.  
'Oh no!' said everyone.  
子どもたちは、探し続けた。  
みんなは、小さな金のかげらを見つけられなかった。  
「私たち、もう見つけれないと思うわ」と、ビフが言った。  
「あ～あ！」と、みんなが言った。



## Roman Adventure ローマの冒険

- PG 1: Biff and Chip were doing a project on the Romans.  
The project was for Mrs May.  
Biff made a chariot and Chip drew a picture.  
ビフとチップは、ローマ人の課題研究をしていた。  
課題は、メイ先生から与えられたものだった。  
ビフは、二輪戦闘車を作り、チップは絵を描いた。
- PG 2: Mum and Dad looked at the project.  
'The Romans were interesting,' said Biff.  
Chip showed Mum his picture.  
It was a picture of a Roman chariot.  
The chariot was pulled by four horses.  
ママとパパは課題を見た。  
「ローマ人は、興味深い人たちだったのね」と、ビフが言った。  
チップは、ママに絵を見せた。  
それは、古代ローマの二輪戦闘車の絵だった。  
戦闘車は、四頭の馬に引かれていた。
- PG 3: Biff showed Dad the model.  
'The Romans had chariot races,' said Biff.  
'The races were dangerous.  
A chariot was so heavy, it needed four horses to pull it.'  
ビフはパパに模型を見せた。  
「ローマ人たちは、二輪戦闘車のレースをしたの」と、ビフが言った。  
「レースは危なかった。  
戦闘車はとても重くて、引くのに四頭の馬が必要だったのよ」。
- PG 4: Mum and Dad played a joke on Biff and Chip.  
They dressed up as Romans.  
'It's time for supper,' called Dad.  
ママとパパは、ビフとチップをからかった。  
二人は、ローマ人のように着飾った。  
「夕飯の時間です」と、パパが呼んだ。
- PG 5: Kipper had some pizza and Mum had some grapes.  
'This is a Roman supper,' said Mum.

'Romans didn't have pizzas,' laughed Biff.  
'How do you know?' asked Mum.  
キッパーはピザを持っていて、ママはぶどうを持っていた。  
「これは、ローマ人の夕食よ」と、ママが言った。  
「ローマ人は、ピザを食べなかったわ」と、ビフが言った。  
「証拠があるの?」と、ママが聞いた。

- PG 6: Biff and Chip went to Biff's room.  
Biff wanted to take the chariot to school,  
But she still had to paint it.  
Chip was good at painting, so he helped Biff.  
ビフとチップは、ビフの部屋へ行った。  
ビフは、戦闘車を学校へ持っていきたかった。  
けれど、まだそれを塗らなければならなかった。  
チップは塗るのが得意だったから、ビフを手伝った。
- PG 7: Suddenly, the magic key began to glow.  
The magic took Biff and Chip on a new adventure.  
'Oh no!' said Biff.  
'I'm still painting the model chariot.'  
突然、魔法の鍵が光り始めた。  
魔法は、ビフとチップを新しい冒険へ連れて行った。  
「どうしよう!」と、ビフが言った。  
「私は、まだ戦闘車の模型を塗っているのに」。
- PG 8: The magic took the children back to Roman times.  
It took them to Rome.  
Biff and Chip saw a girl.  
She was playing in the street.  
魔法は、子どもたちを古代ローマ時代へ連れて行った。  
二人を、ローマへと連れて行った。  
ビフとチップは女の子を見た。  
その子は、道で遊んでいた。
- PG 9: The girl looked at Biff's model.  
'It's a good model,' she said, 'but it doesn't look quite right'  
'We've never seen a real chariot,' said Biff.  
女の子は、ビフの模型を見た。  
「よくできた模型だわ」と、女の子が言った。「でも、本物  
そっくりには見えないわ」  
「私たちは、本物の戦闘車を見たことがないの」と、ビフが言った。

- PG 10: The Roman girl was called Diana.  
She had a brother called Mark.  
He was a chariot driver.  
Mark looked at Biff's model chariot.  
'I can show you a real chariot,' he said.  
そのローマ人の女の子は、ダイアナという名前だった。  
女の子には、マークというお兄さんがいた。  
彼は、戦闘車の騎手だった。  
マークは、ビフの模型を見た。  
「僕が、本物の戦闘車を見せてあげるよ」と、マークが言った。
- PG 11: Mark opened some big doors.  
Inside was a real chariot.  
It was like Biff's model, but it was very big.  
'Wow!' said Biff.  
マークは大きなドアを開けた。  
中には大きな戦闘車があった。  
それはビフの模型に似ていた、でもそれは大きかった。  
「すごい！」と、ビフが言った。
- PG 12: Mark let Biff go on the chariot.  
Biff pretended she was a chariot driver.  
She pretended she was in a race.  
'I wish I could be a chariot driver,' said Biff.  
マークはビフを戦闘車に乗せた。  
ビフは戦闘車の騎手のふりをした。  
ビフは、レースで走っているふりをした。  
「戦闘車の騎手になりたいわ」と、ビフが言った。
- PG 13: Mark laughed at Biff.  
'You have to be strong to race chariots,' he said.  
'I'm in a race today.  
Come and watch it.'  
マークはビフのことを笑った。  
「強くないと、戦闘車でレースする事はできないんだ」と、  
マークが言った。  
「今日、僕はレースに出るんだ。  
見に来るかい？」
- PG 14: Everyone was hungry, so Diana took the children home.

'We can have some bread,' she said.

'My father is a baker.

He makes the best bread in Rome.'

みんなは、お腹が空いていたので、ダイアナは子どもたちを家へ連れ行った。

「パンを食べると良いわ」と、ダイアナが言った。

「私のお父さんは、パン屋なの。

ローマで一番おいしいパンを焼くのよ」。

PG 15: Everyone looked at the bread, but something was wrong.

The bread didn't look right.

It was flat.

It didn't look like bread at all.

みんなはパンを見た、けれど、何かがおかしかった。

パンは何か変に見えた。

それは、ぺちゃんこだった。

全然、パンの様には見えなかった。

PG 16: Diana's father made some more bread.

He baked it in the oven, but it was flat, too.

'This is bad,' said Diana's father.

'Nobody will buy bread like this.'

ダイアナのお父さんは、またパンを焼いた。

オーブンで焼いたが、また、ぺちゃんこだった。

「これはまずい」と、ダイアナのお父さんが言った。

「誰もこんなパンは買わないぞ」。

PG 17: Chip looked at the flat bread.

He had a good idea.

'We can make pizzas,' he said.

'What are pizzas?' asked Diana.

'We don't know what pizzas are.'

チップは平らなパンを見た。

良いアイデアがひらめいたのだ。

「ピザを作れるよ」と、チップが言った。

「ピザって何？」と、ダイアナが聞いた。

「私たち、ピザって何なのか知らないわ」。

PG 18: Chip told Diana's mother how to make pizzas.

Everyone helped.

Diana's mother cooked the pizzas in the big oven.

チップは、ダイアナのお母さんに、ピザの作り方を教えた。  
みんなが手伝った。  
ダイアナのお母さんは、大きなオーブンでピザを作った。

- PG 19: The pizzas looked good.  
'I hope you like them,' said Chip.  
'Everyone likes pizzas,' said Biff.  
'They smell good,' said Diana's mother.  
ピザはおいしそうに見えた。  
「気に入ってくれると、いいんだけど」と、チップが言った。  
「誰でも、ピザは好きよ」と、ビフが言った。  
「良いにおいがするわ」と、ダイアナのお母さんが言った。
- PG 20: The pizzas tasted good too.  
Diana's father was pleased.  
'Now we can sell them,' he said.  
'We can sell lots and lots.  
What a good job that the bread was flat.'  
それに、ピザはおいしかった。  
ダイアナのお父さんは満足だった。  
「これでパンが売れるぞ」と、お父さんは言った。  
「たくさん、たくさん売れるぞ。  
パンがぺちゃんこで良かったな」。
- PG 21: They went outside to sell the pizzas, but there was nobody in the street.  
There was nobody to buy the pizzas.  
'Where is everyone?' asked Biff.  
Everyone had gone to the chariot races.  
みんなはピザを売るために外に出たが、道には誰もいなかった。  
ピザを買う人は誰もいなかった。  
「みんなはどこ？」と、ビフが聞いた。  
みんなは、戦闘車のレースに行ってしまった。
- PG 22: Diana's father was upset.  
He looked at all the pizzas.  
'All that work for nothing,' he said.  
'How can we sell pizzas when everyone is at the chariot races?'  
ダイアナのお父さんは悲しがった。  
お父さんは、ピザを見た。  
「あの苦勞が、無駄に終わってしまった」と、お父さんが言った。  
「みんなが戦闘車のレースにいるのに、どうやってピザが売れるん

だ？」

- PG 23: Diana had an idea.  
She put some pizzas in a basket.  
'Come on,' she called.  
'If everyone is at the chariot races, we can sell the pizzas there.'  
ダイアナにはアイデアがあった。  
ダイアナは、ピザを数枚バスケットの中に入れた。  
「行きましょう」と、ダイアナが叫んだ。  
「もし、みんなが戦闘車のレースにいるのだったら、私たちはそこでピザを売るのよ」。
- PG 24: They took the pizzas to the chariot races.  
'Come and buy a pizza,' called Diana.  
But nobody bought the pizzas.  
Everyone was looking at the races.  
みんなはピザを戦闘車のレースに持って行った。  
「ピザを買いに、いらっしやい」と、ダイアナが声をかけた。  
でも、誰もピザを買わなかった。  
みんなは、レースを見ていた。
- PG 25: The children saw Mark, so they gave him one of the pizzas.  
'These pizzas are good,' said Mark.  
Biff looked at the chariot and she had a good idea.  
子どもたちは、マークを見かけたので、マークにピザをあげた。  
「このピザはおいしいな」と、マークが言った。  
ビフは、戦闘車を見て、良いアイデアが浮かんだ。
- PG 26: The children had a banner.  
It was about the pizzas.  
Mark put it on his chariot.  
The people laughed when they saw the banner.  
子どもたちは旗を作った。  
それは、ピザの絵の旗だった。  
マークは、それを自分の戦闘車に付けた。  
人々は、その旗を見て笑った。
- PG 27: 'Why has Mark put a banner on his chariot?' people asked.  
'And what are pizzas?'  
The race began and everyone cheered when Mark came first.  
「どうして、マークは戦闘車に旗を付けたんだ？」と、人々が聞いた。

た。  
「それに、ピザってなんだ？」  
レースが始まって、マークが1等になると、みんなが歓声を上げた。

- PG 28: The people ran to buy the pizzas.  
'These pizzas are good,' they said.  
'What a good idea to put a banner on the chariot.'  
人々は、ピザを買いに走って来た。  
「このピザはおいしい」と、みんなが言った。  
「旗を戦闘車に付けるとは、なんておもしろいアイデアだろう」。
- PG 29: Just then, some soldiers grabbed the family and the children.  
'You must stop selling pizzas,' they said.  
'The Emperor wants to see you.  
Come with us.'  
その時、兵士がやってきて、家族と子どもたちを捕まえた。  
「おまえたちはピザ販売を中止せねばならない」と、兵士が言った。  
「皇帝が会いたいとおっしゃっている。  
私たちと来るのだ」。
- PG 30: The Emperor was angry.  
'This has got to stop,' he said.  
'Who put this banner on the chariot?  
And what are pizzas?'  
'Would you like to try one?' asked Diana.  
皇帝は怒っていた。  
「これは、やめさせなければならない」と、皇帝が言った。  
「この旗を戦闘車に付けたのは誰だ？  
それに、ピザとはなんだ？」  
「一つ、食べてみますか？」と、ダイアナが聞いた。
- PG 31: 'They taste good,' said the Emperor.  
'You can deliver some to the palace.  
But I don't want banners on the chariots,  
So take your banner away.'  
Just then, the magic key glowed.  
「これはおいしい」と、皇帝が言った。  
「宮殿に配達するが良い。  
だが、旗を戦闘車に付けないで欲しい、

だから、旗を取りはずしなさい」  
その時、魔法の鍵が光った。

- PG 32: Chip looked at the little banner.  
He put it on Biff's chariot.  
'The Emperor didn't like banners on chariots,' he said.  
'I wonder what Mrs May will think.'  
チップは、小さな旗を見た。  
チップは、それをビフの戦闘車に付けた。  
「皇帝は、戦闘車に旗を付けるのを嫌がったけど」と、チップが  
言った。  
「メイ先生はどう思うかな？」